

## IV 調査項目ごとの集計結果

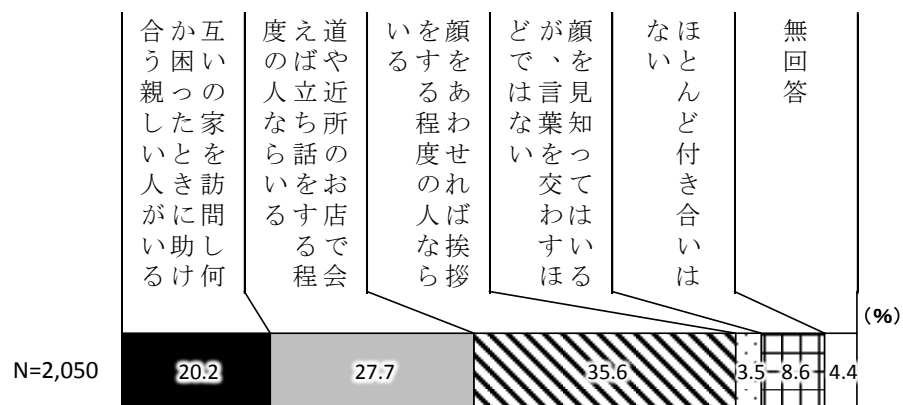
本章では、本調査に協力いただいたすべての回答結果を単純集計している。

### 1 地域とのかかわりの状況

#### (1) 地域とのかかわりの程度

問1. あなたは普段、ご近所の人たちとどの程度お付き合いをしていますか。1つだけ選んで○をつけてください。  
(○は1つだけ)

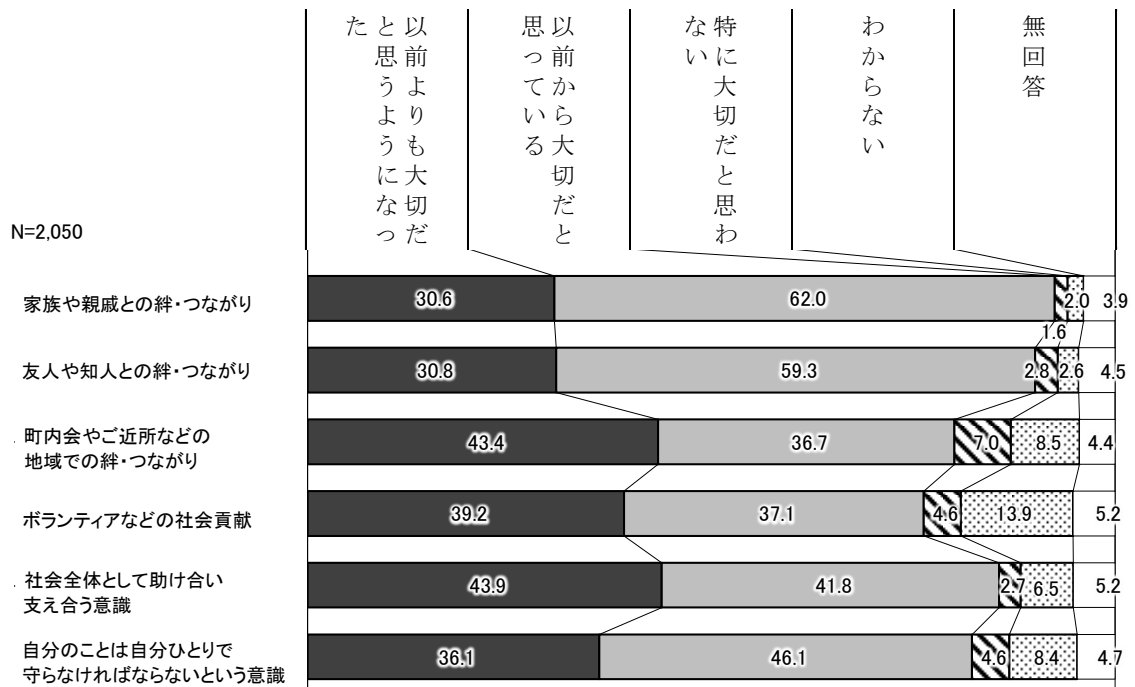
○「顔をあわせれば挨拶をする程度の人ならいる」が 35.6%と最も多く、3 割強を占めている。  
次に、「道や近所のお店で会えば立ち話をする程度の人ならいる」が 27.7%、「互いの家を訪問し何か困ったときに助け合う親しい人がいる」が 20.2%と 2 割台で続いている。



## (2) 東日本大震災前後でのかかわり意識の変化

問2. 東日本大震災以前(平成23年3月11日以前)と現在とを比べて、以下の項目についてあなたの考え方は変わりましたか。項目ごとに、あてはまるものをそれぞれ1つだけ選んで○をつけてください。(項目ごとに○は1つ)

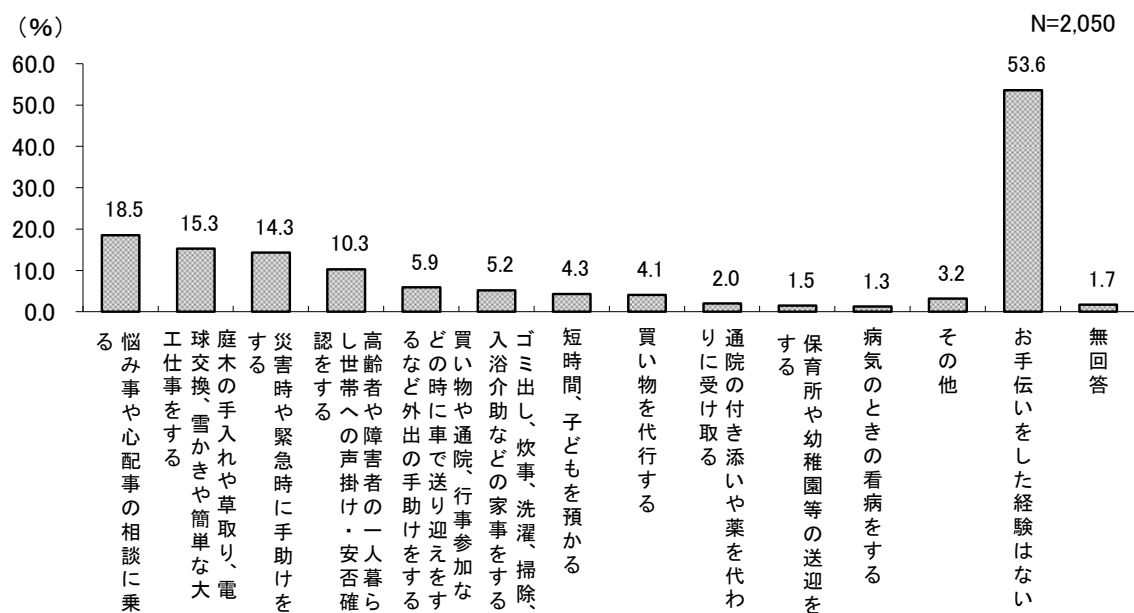
○ “家族や親戚との絆・つながり” や “友人や知人との絆・つながり” については、「以前から大切だと思っている」が約6割を占めているのに対して、“町内会やご近所などの地域での絆・つながり”、“ボランティアなどの社会貢献”及び“社会全体として支え合う意識”については、「以前よりも大切だと思ふようになった」が約4割を占め、これらの項目については、いずれも「以前から大切だと思っている」の割合を上回っている。



## (3) 地域の人との支え合いの経験

問3. あなたは、ご近所の人に対して、過去1年の間に、どのような手助け・手伝いをした経験がありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

○「お手伝いをした経験はない」が53.6%と半数を超えている。手助け・手伝いをした経験がある人では、「悩み事や心配事の相談に乗る」が18.5%と約2割の人が挙げ最も多く、以下、「庭木の手入れや草取り、電球交換、雪かきや簡単な大工仕事をする」(15.3%)、「災害時や緊急時に手助けをする」(14.3%)、「高齢者や障害者の一人暮らし世帯への声掛け・安否確認をする」(10.3%)が1割台で続いている。

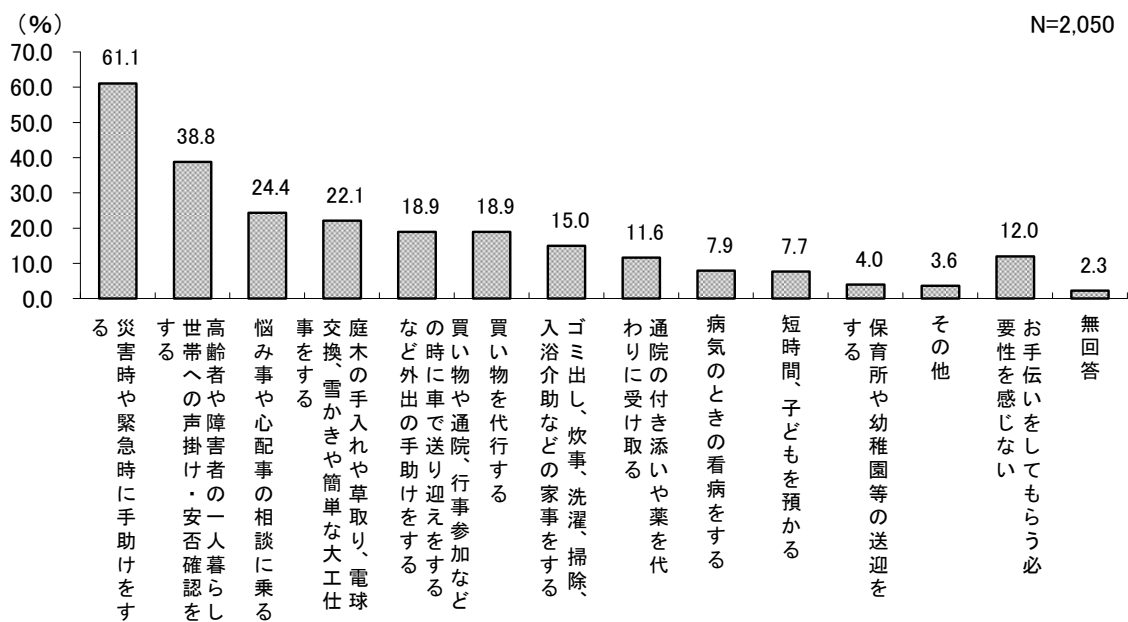


## (4) 地域の人から今後協力してもらいたいこと

問4. あなたは、あなたやあなたの家族が高齢になったり、病気や事故で日常生活が不自由となったとき、ご近所の人からどのような手助け・手伝いをしてもらいたいと思いますか。(現在、手伝ってもらっている場合も含む。)あてはまるものすべてに○をつけてください。

( ○はいくつでも )

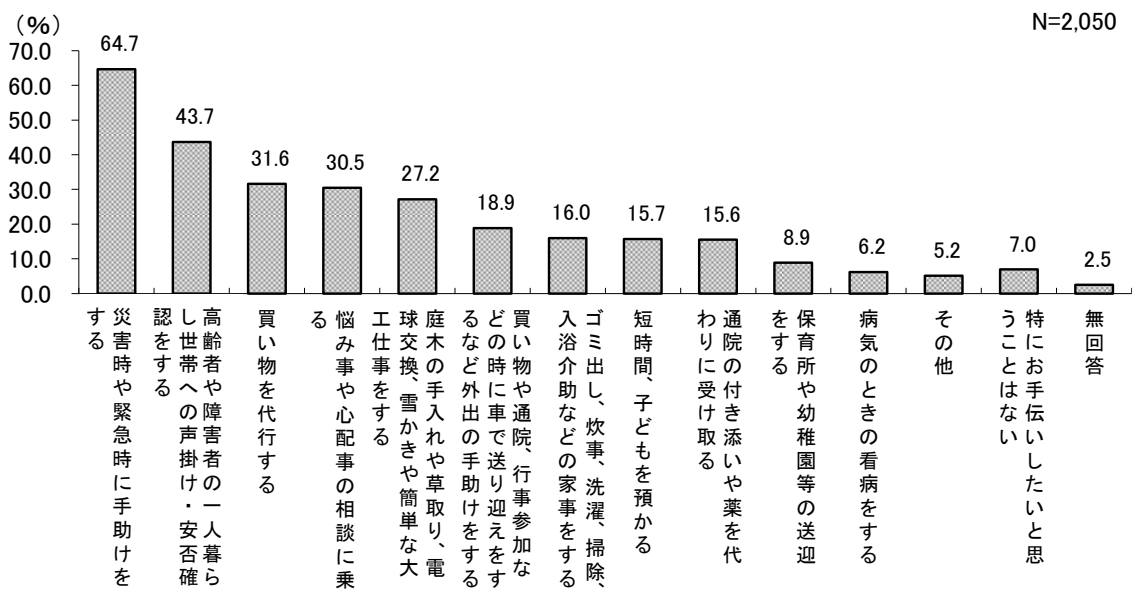
○「災害時や緊急時に手助けをする」が61.1%と6割を超え、最も多く、以下、「高齢者や障害者の一人暮らし世帯への声掛け・安否確認をする」(38.8%)、「悩み事や心配事の相談に乗る」(24.4%)が続いている。



## (5) 地域の人に対して今後協力できること

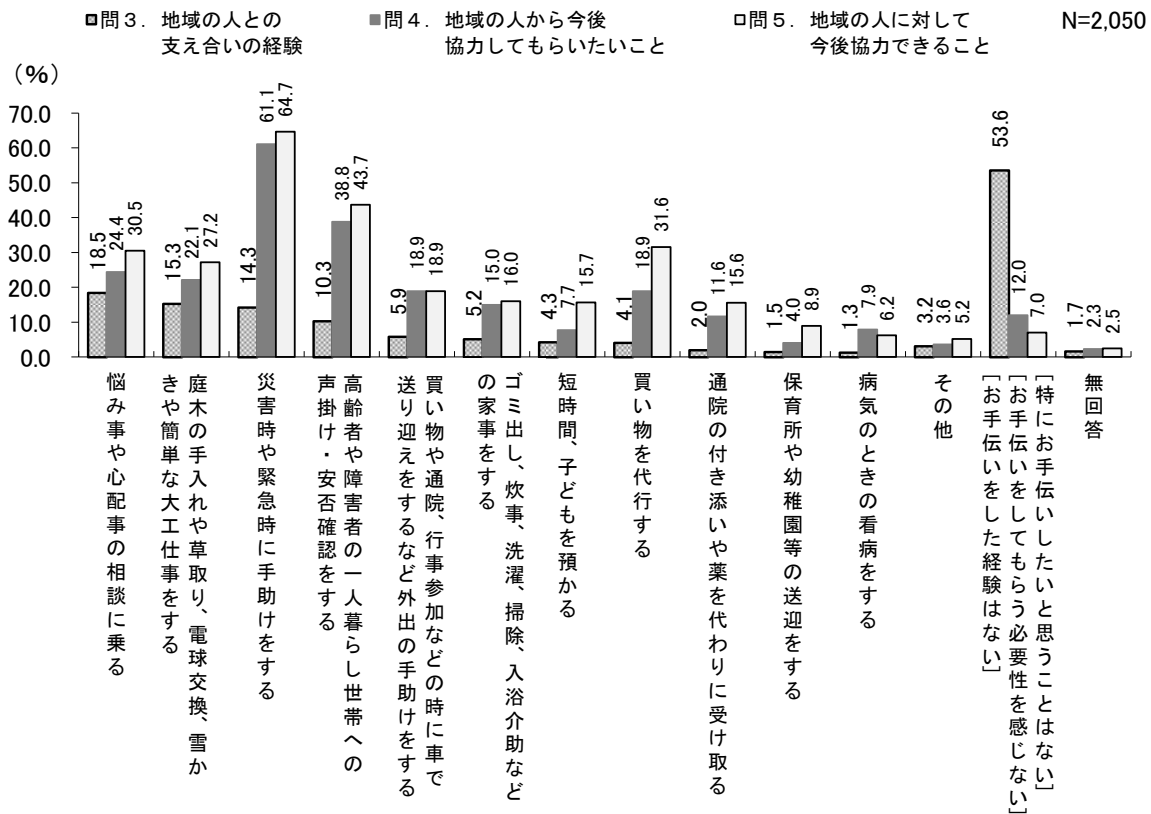
問5. 今後、ご近所の方やご近所の家族が高齢になったり、病気や事故で日常生活が不自由となったとき、あなたが手助けしたりお手伝いしたいと思うことはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

○「災害時や緊急時に手助けをする」が64.7%と6割を超え、最も多く、以下、「高齢者や障害者の一人暮らし世帯への声掛け・安否確認をする」(43.7%)、「買い物の代行をする」(31.6%)が続いている。



参考： 問3. 地域の人との支え合いの経験  
問4. 地域の人から今後協力してもらいたいこと  
問5. 地域の人に対して今後協力できること

比較

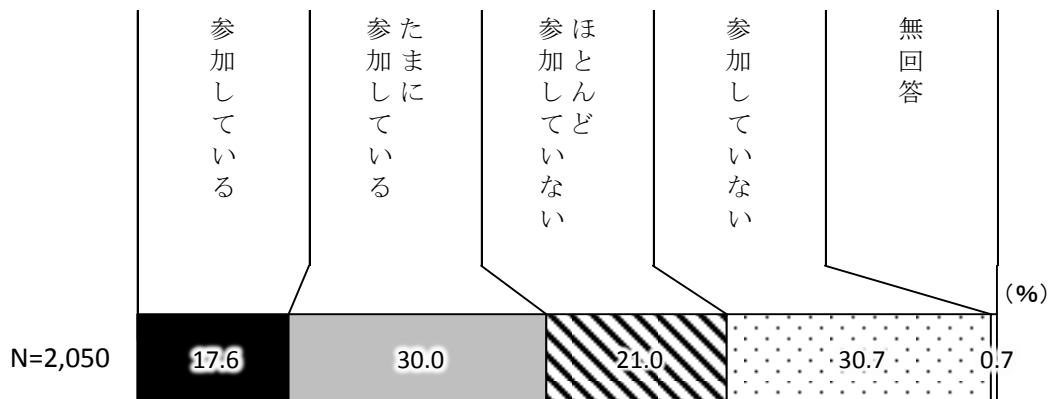


	問3. 地域の人との支え合いの経験	問4. 地域の人から今後協力してもらいたいこと	問5. 地域の人に対して今後協力できること
1位	悩み事や心配事の相談に乗る 18.5%	災害時や緊急時に手助けをする 61.1%	災害時や緊急時に手助けをする 64.7%
2位	庭木の手入れや草取り、電球交換、雪かきや簡単な大工仕事をする 15.3%	高齢者や障害者の一人暮らし世帯への声掛け・安否確認をする 38.8%	高齢者や障害者の一人暮らし世帯への声掛け・安否確認をする 43.7%
3位	災害時や緊急時に手助けをする 14.3%	悩み事や心配事の相談に乗る 24.4%	買い物を代行する 31.6%
4位	高齢者や障害者の一人暮らし世帯への声掛け・安否確認をする 10.3%	庭木の手入れや草取り、電球交換、雪かきや簡単な大工仕事をする 22.1%	悩み事や心配事の相談に乗る 30.5%
5位	買い物や通院、行事参加などの時に車で送り迎えをするなど外出の手助けをする 5.9%	買い物や通院、行事参加などの時に車で送り迎えをするなど外出の手助けをする 18.9%	庭木の手入れや草取り、電球交換、雪かきや簡単な大工仕事をする 27.2%
		買い物を代行する 18.9%	

## (6) 地域の行事や活動への参加状況

問6. あなたは、地域内での行事や活動に参加していますか。1つだけ選んで○をつけてください。  
( ○は1つだけ )

○「参加している」(17.6%)と「たまに参加している」(30.0%)とをあわせると47.6%、また、「参加していない」(21.0%)と「ほとんど参加していない」(30.7%)とをあわせると51.7%と、地域の行事や活動への参加割合は、約5割となっている。

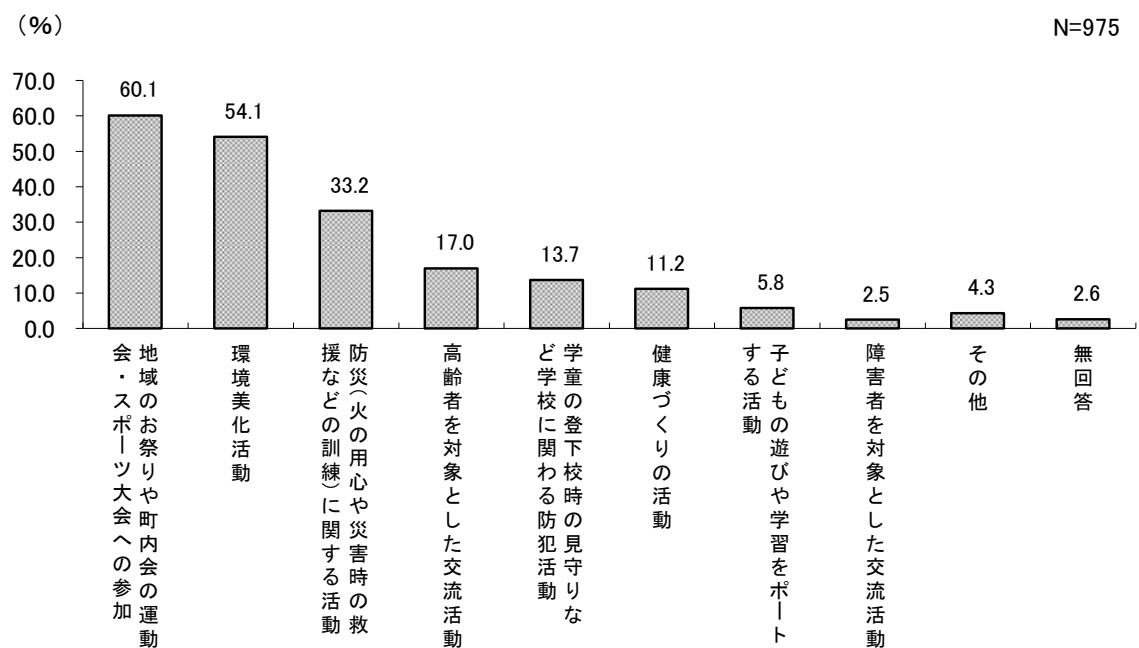


『参加している』・ 『たまに参加している』	『ほとんど参加していない』・ 『参加していない』
47.6%	51.7%

## (7) 地域の行事や活動への参加内容

問7. 設問6で「参加している」または「たまに参加している」と回答した方に伺います。あなたは、地域でのどのような行事や活動に参加していますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。————→ 回答後、問9へ (○はいくつでも)

○「地域のお祭りや町内会の運動会・スポーツ大会への参加」が60.1%と約6割の人が挙げ最も多く、「環境美化活動」が54.1%、「防災に関する活動」が33.2%と続いている。



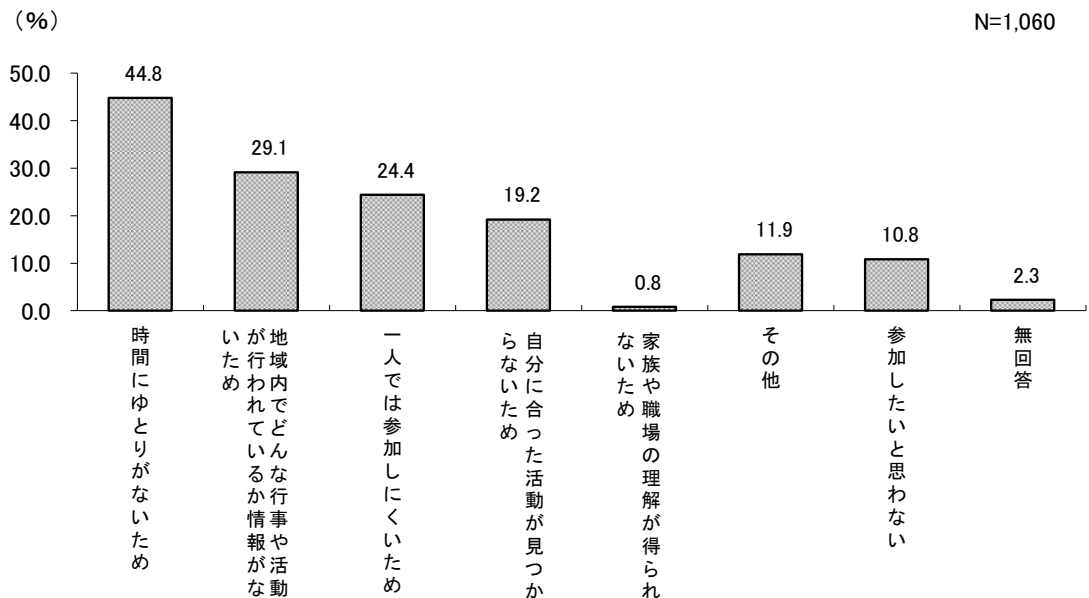


## (8) 地域の行事や活動への不参加理由

問8. 設問6で「ほとんど参加していない」または「参加していない」と回答した方に伺います。参加していない理由は次のうちどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

( ○はいくつでも )

- 「時間にゆとりがないため」が 44.8%と最も多く、以下、「地域内でどんな行事や活動が行われているか情報がないため」(29.1%)、「一人では参加しにくい」ため」(24.4%)が続いている。なお、「その他」の主な意見では、体調不良や高齢のため参加できない、地域住民と関わりたくないなどが挙げられた。



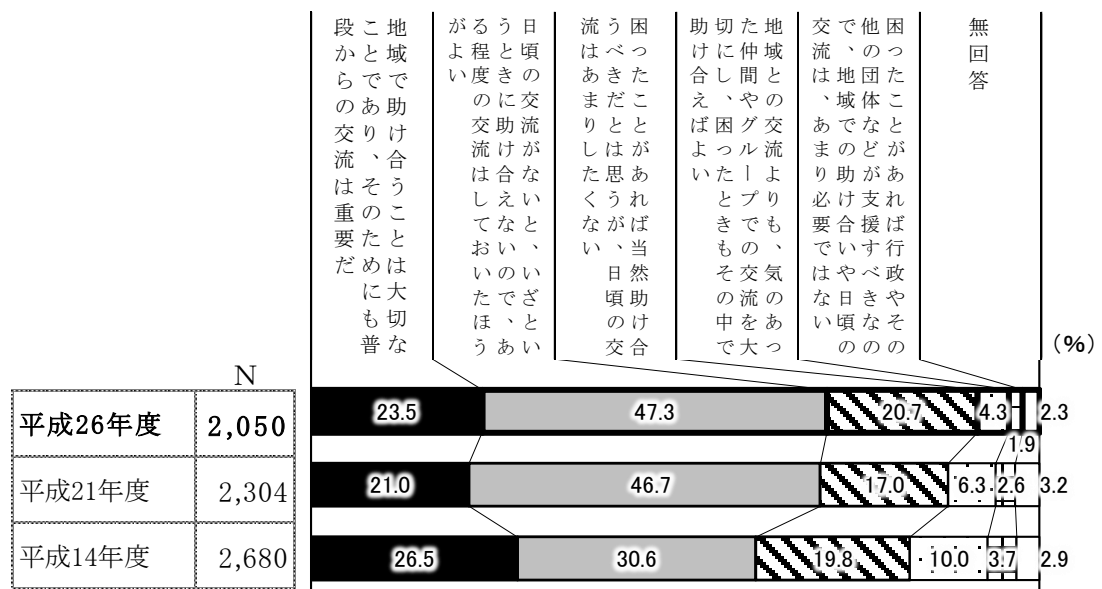
## (9) 地域住民同士の交流や助け合いについての考え

問9. あなたは、近所付き合い、地域住民同士の交流や助け合いについて、どのように考えますか。  
あなたの気持ちに一番近いものを下記から1つだけ選んで○をつけてください。

(○は1つだけ)

○「日頃の交流がないと、いざというときに助け合えないので、ある程度の交流はしておいたほうがよい」が47.3%と5割近くを占め最も多く、以下、「地域で助け合うことは大切なことであり、そのためにも普段からの交流は重要だ」(23.5%)、「困ったことがあれば当然助け合うべきだとは思うが、日頃の交流はあまりしたくない」(20.7%)が2割台で続いている。

○経年比較でみると、「日頃の交流がないと、いざというときに助け合えないので、ある程度の交流はしておいたほうがよい」が増加傾向にあり、平成14年度と比べると16.7ポイント増加している。一方、「困ったことがあれば行政やその他の団体などが支援すべきなので、地域での助け合いや日頃の交流は、あまり必要ではない」が減少傾向にあり、平成14年度と比べると5.7ポイント減少している。



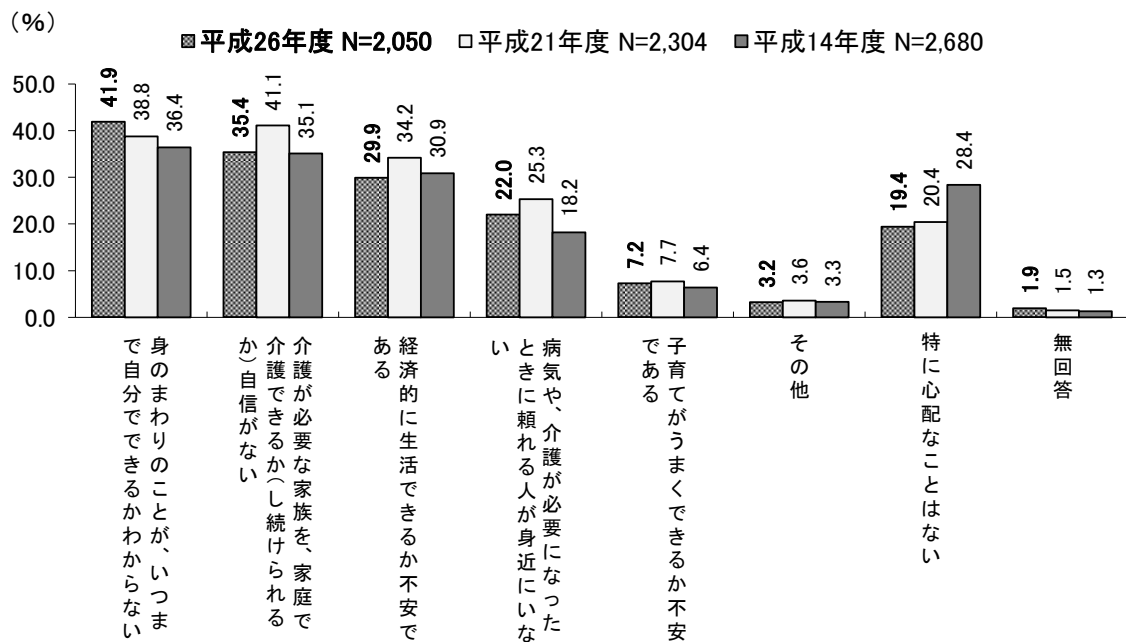
## 2 自分自身の心配

### (1) 地域で生活していく上での心配ごと

問10. あなたが住みなれた地域で生活していく上で、心配していることは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。  
(○はいくつでも)

○「身のまわりのことが、いつまで自分でできるかわからない」が41.9%と4割を超え最も多く、以下、「介護が必要な家族を、家庭で介護できるか(し続けられるか)自信がない」(35.4%)、「経済的に生活できるか不安である」(29.9%)が続いている。

○経年比較でみると、「身のまわりのことが、いつまで自分でできるかわからない」が増加傾向にあり、平成14年度と比べると5.5ポイント増加している。なお、「特に心配なことはない」が平成14年と比べると9.0ポイント減少している。

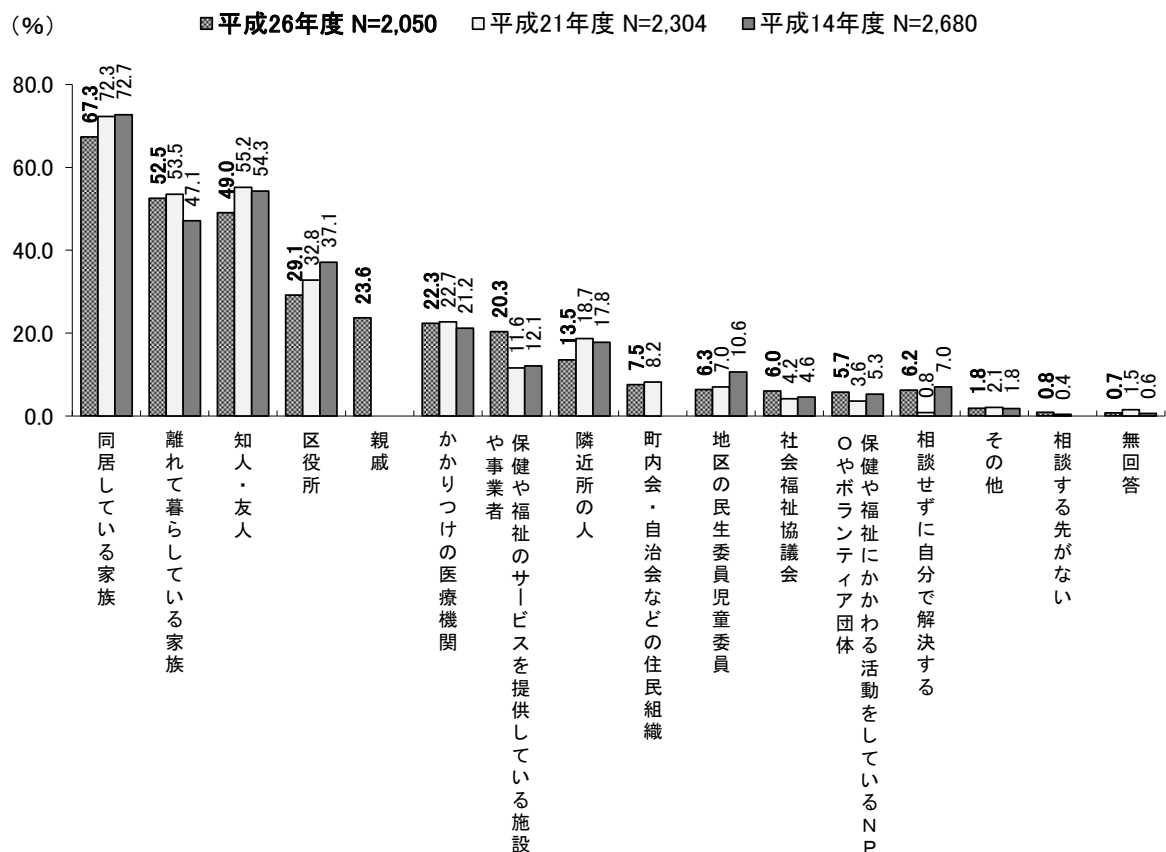


## (2) 心配ごとが起きた場合の相談相手

問 11. あなたが住みなれた地域で生活していく上で、心配なことが起こったとき、どこに相談しますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

○心配事が起きた場合の相談相手については、「同居している家族」が 67.3%と約 7 割の人が挙げ最も多く、次に、「離れて暮らしている家族」(52.5%)、「知人・友人」(49.0%)と続いている。

○経年比較でみると、「同居している家族」、「区役所」が減少傾向にある。一方、「保健や福祉のサービスを提供している施設や事業者」が平成 14 年と比べると 8.2 ポイント増加している。

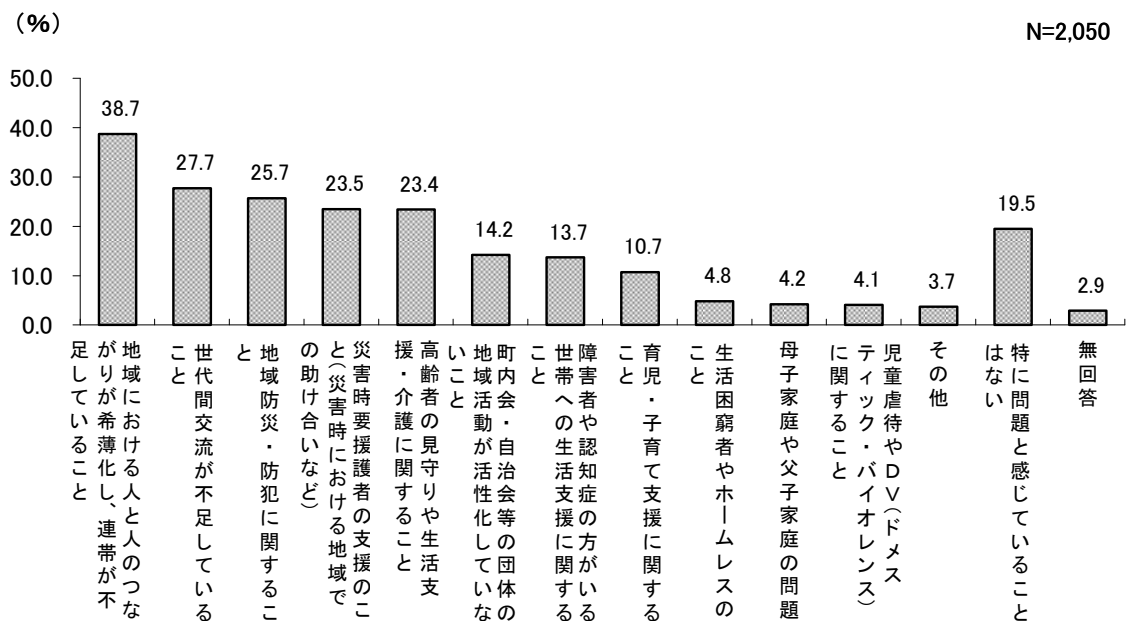


## (3) 地域における課題認識

問 12. 現在、あなたがお住まいの地域やその周辺では、安心して生活していく上で、どのような問題や課題があると感じていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

( ○はいくつでも )

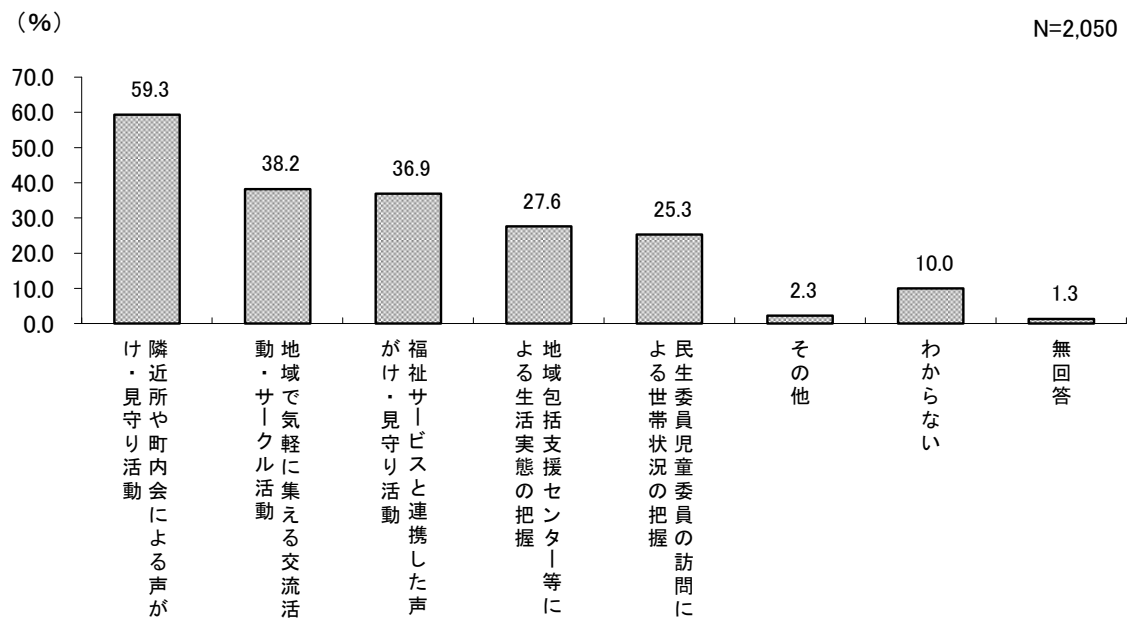
○「地域における人と人のつながりが希薄化し、連帯が不足していること」が38.7%と約4割に達し最も多く、以下、「世代間交流が不足していること」(27.7%)、「地域防災・防犯に関すること」(25.7%)が続いている。



## (4) 地域や社会からの孤立を防ぐための取り組み

問 13. 地域や社会からの孤立を防ぐためにどのような取り組みが有効だと考えられますか。あてはあるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

○「隣近所や町内会による声がけ・見守り活動」が 59.3%と約 6 割に達し最も多く、以下、「地域で気軽に集える交流活動・サークル活動」(38.2%)、「福祉サービスと連携した声がけ・見守り活動」(36.9%) が 3 割台で続いている。

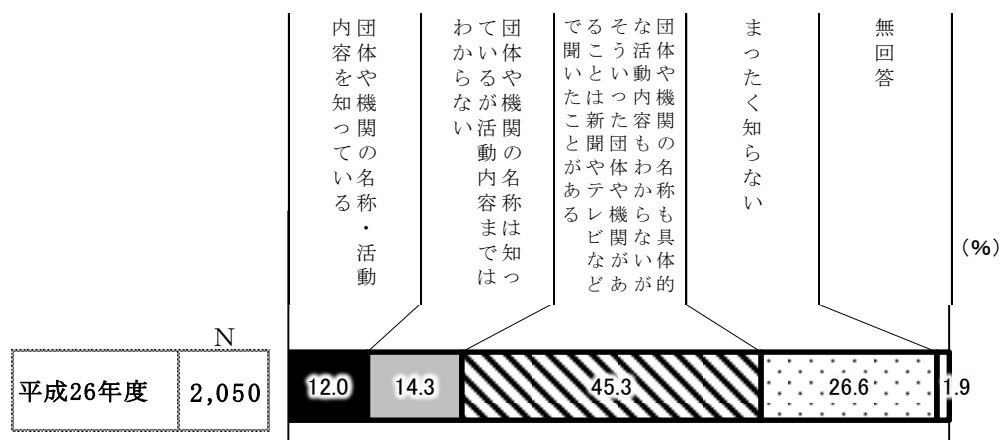


### 3 地域保健福祉活動への参加意欲

#### (1) 地域における福祉活動団体の把握

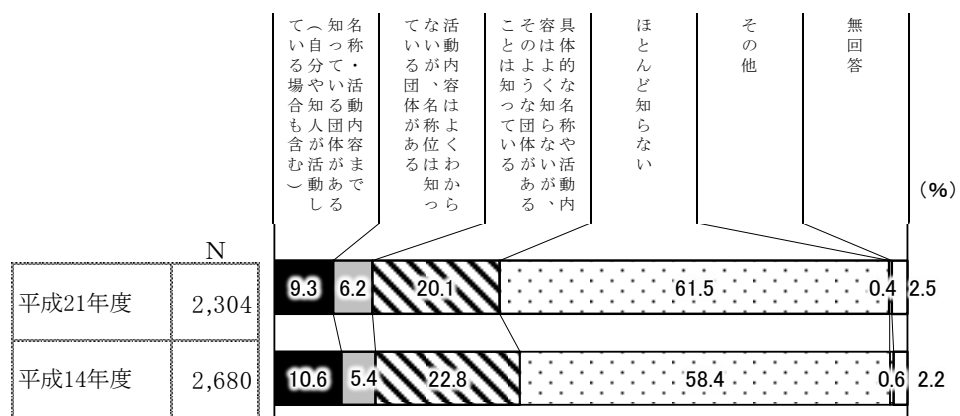
問 14. あなたは、保健や福祉に関するボランティア活動を行っている団体や機関を知っていますか。  
1つだけ選んで○をつけてください。 (○は1つだけ)

○「団体や機関の名称も具体的な活動内容もわからないがそういった団体や機関があることは新聞やテレビなどで聞いたことがある」が 45.3%と約半数を占めている。以下、「まったく知らない」が 26.6%、「団体や機関の名称は知っているが活動内容まではわからない」が 14.3%などとなっている。



#### 参考：平成 21 年度、平成 14 年度調査

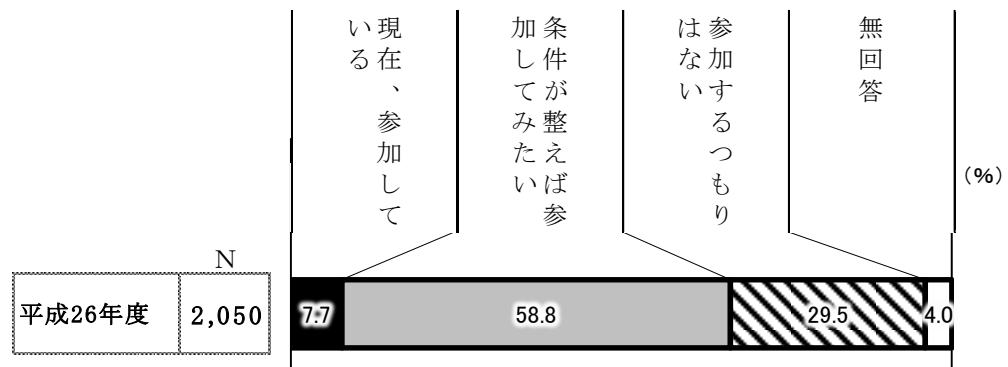
平成 21 年度、平成 14 年度も同様の設問を設けたが、選択肢が異なるため、参考値となる。



## (2) 地域でのボランティア活動への参加経験

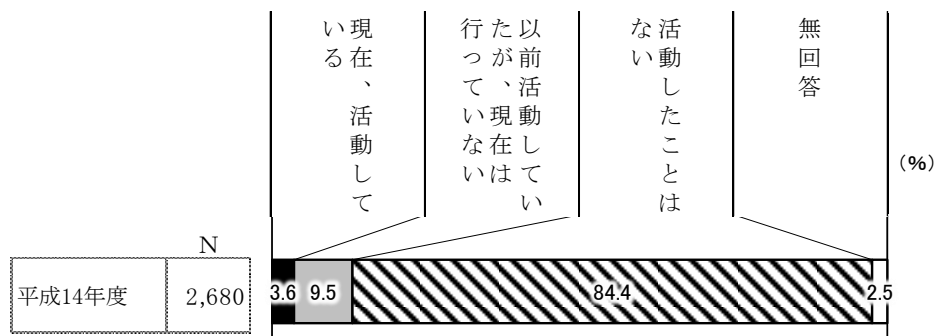
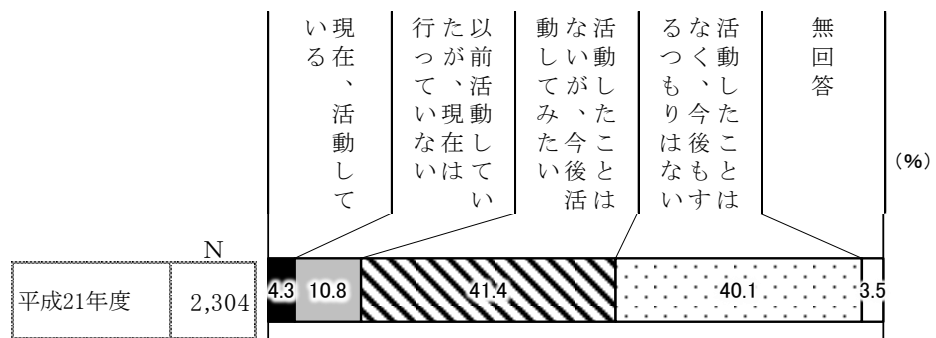
問15. あなたは、ボランティア活動に参加したいと思いますか。1つだけ選んで○をつけてください。  
(○は1つだけ)

○「現在、参加している」は7.7%と1割に満たないが、「条件が整えば参加してみたい」が58.8%と6割近くを占めている。



## 参考：平成21年度、平成14年度調査

平成21年度、平成14年度も同様の設問を設けたが、選択肢が異なるため、参考値となる。



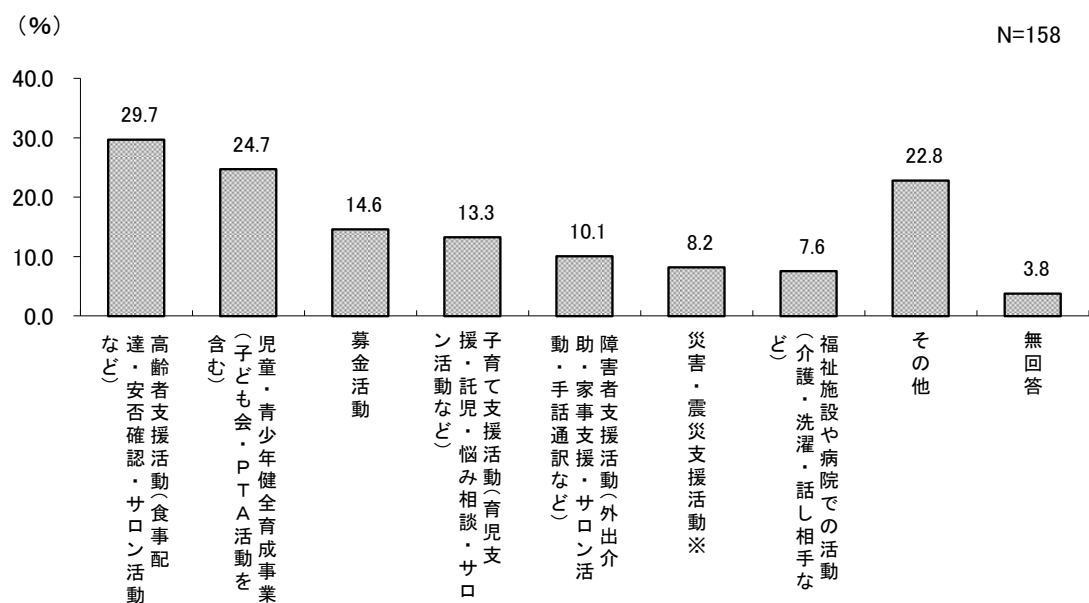


## (3) 地域でのボランティア活動への参加内容

問 16. 設問 15 で「現在、参加している」と回答した方に伺います。あなたが参加しているボランティア活動は、次のうちどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

( ○はいくつでも )

- 「高齢者支援活動（食事配達・安否確認・サロン活動など）」(29.7%) が約3割の人が挙げ他の項目より多く、以下、「児童・青少年健全育成事業（子ども会・PTA活動を含む）」(24.7%)、「募金活動」(14.6%)が続いている。なお、「その他」の主な意見では、学校・教育関連活動や公共施設運営の補助などが挙げられた。



※災害・震災支援活動は、「その他」の中で特に多かったため抜粋

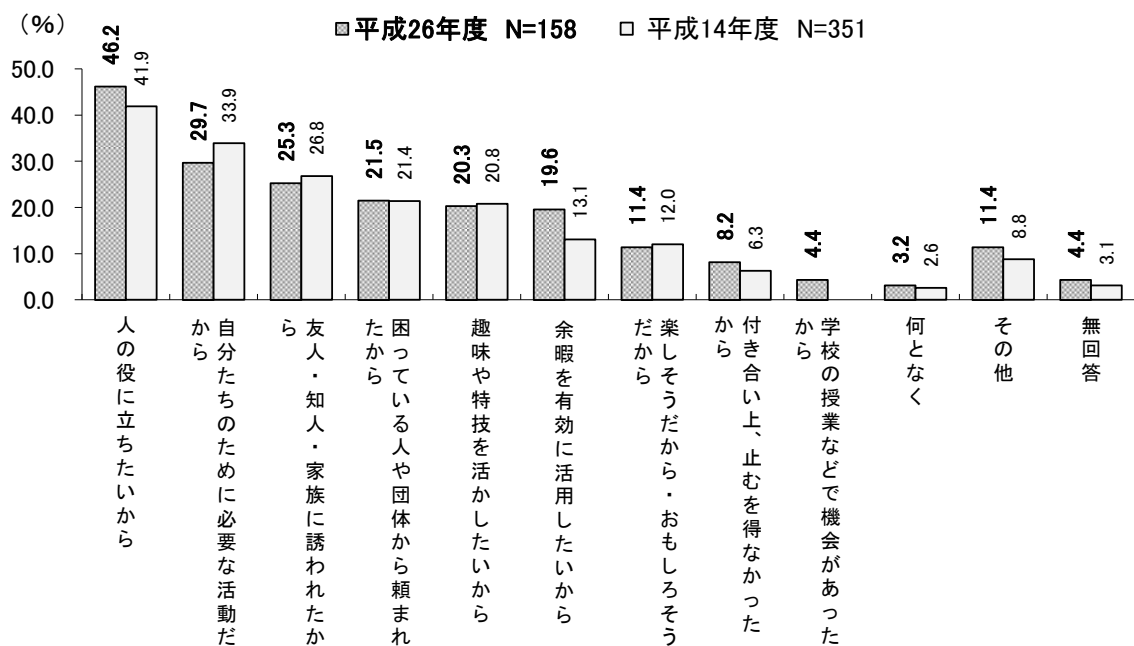
## (4) ボランティア活動への参加動機

問 17. 設問 15 で「現在、参加している」と回答した方に伺います。あなたがボランティア活動に参加したきっかけは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

→ 回答後、問 19 へ

( ○はいくつでも )

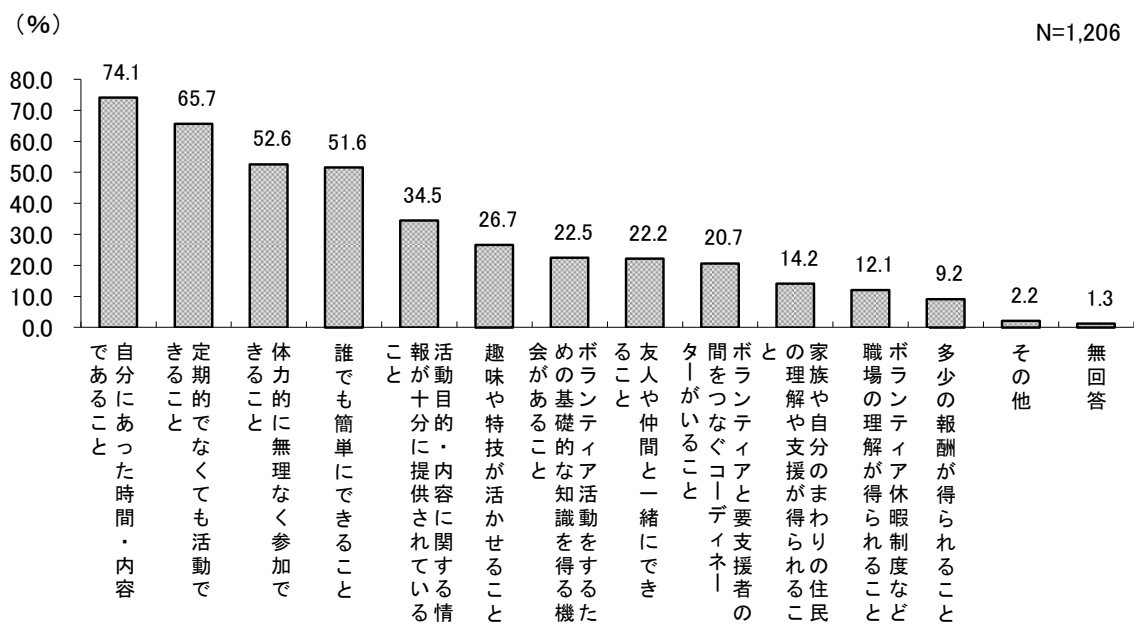
○「人の役に立ちたいから」が 46.2%と最も多く、以下、「自分たちのために必要な活動だから」(29.7%)、「友人・知人・家族に誘われたから」(25.3%)が続いている。なお、「その他」の主な意見では、町内会活動や勤務先の活動をきっかけに始めた、などが挙げられた。



## (5) ボランティア活動に参加するための条件

問 18. 設問 15 で「条件が整えば参加してみたい」と回答した方に伺います。次のうち、どのような条件が整えば、ボランティア活動に参加したいと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

○「自分にあった時間・内容であること」が 74.1%と最も多く、次に「定期的でなくても活動できること」(65.7%)が続いており、以下、「体力的に無理なく参加できること」(52.6%)、「誰でも簡単にできること」(51.6%)が5割台が続いている。また、「活動目的・内容に関する情報が十分に提供されていること」(34.5%)についても、約3割の人が挙げている。

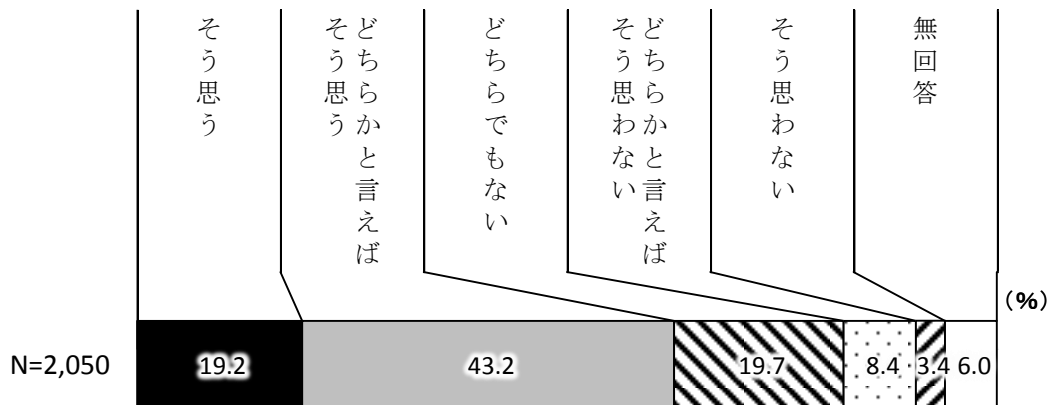


## 4 今後の地域保健福祉のあり方

### (1) 現在住んでいる地域の安心度・充実度

問 19. あなたが、今後も同じ地域で暮らしつづけて行くとした場合、あなたが現在住んでいる地域は、安心して、充実した生活を送ることができると思いますか。次のうちからあてはまるものを1つだけ選んで○をつけてください。（○は1つだけ）

○「そう思う」(19.2%)と「どちらかと言えばそう思う」(43.2%)とをあわせると62.4%、また、「そう思わない」(3.4%)と「どちらかと言えばそう思わない」(8.4%)とをあわせると11.8%となっている。



『そう思う』・ 『どちらかと言えばそう思う』	『どちらかと言えばそう思わない』・ 『そう思わない』
62.4%	11.8%

## (2) 現在住んでいる地域の安心度・充実度の理由

問 20. 設問 19 であなたがそのように考えた理由をご自由にお書きください。

○現在住んでいる地域の安心度・充実度を答えた理由についての自由意見を取りまとめたところ、1,130 名の人から、1,657 件の意見を得た。意見の件数は複数回答の取り扱いとしている。

分 類	意見数計	そう思う・どちらかと言えばそう思う理由の意見数	どちらともいえない理由の意見数	どちらかと言えばそう思わない・そう思わない理由の意見数
<b>総意見数</b> (回答者数)	<b>1,657</b> (1,130)	<b>1,146</b> (734)	<b>259</b> (213)	<b>252</b> (183)
1 地域交流(地域コミュニティとのつながり)	473	322	86	65
2 保健福祉(高齢・障害)・医療機関の充実度	220	142	33	45
3 買い物・商業施設の充実度	156	123	7	26
4 公共交通機関の充実度	144	110	12	22
5 住環境(自然との調和・治安の安定)の充実	142	103	15	24
6 家族・親族・友人・知人等の存在	89	70	10	9
7 行政機関・公共施設の充実度	78	58	7	13
8 子育て支援・教育環境の充実度	52	37	6	9
9 経済基盤の充実度	36	7	14	15
10 災害に強い都市基盤	25	12	5	8
11 その他 (特に問題がないこと 65 件、 長期居住による安心感 32 件含む)	242	162	64	16

以下に主な意見を抜粋する。(表記は原文のまま)

※文末の( )内は、(性別・年齢・問 19 回答項目)となっている。

## 1 地域交流(地域コミュニティとのつながり)

- ◆ ご近所の方々と日頃より交流があり、皆いざと言う時は助け合える関係が築かれている。町内会も充実していて心配はいらない。又、何でも話しあえる友人が近所にいるので、安心しています。ただ、冬の雪かきが大変で、高齢になるとそれが不安です。(女性 40 歳代 そう思う)
- ◆ 現在、住んでいる所の町内会がとても充実していて、会長さんを中心に、すごくまとまっていると思うので、そう思いました。震災の時も、みんなが助け合っていました。(女性 50 歳代 そう思う)
- ◆ 今年町内会にはじめて参加して、町内会の集まりで熱心な役員の方々が常にいるということを知った。自分は微力だがやれる範囲で参加したいと思った。(女性 40 歳代 そう思う)

- ◆ 災害など起きた時、一番早く「助ける、助けてもらう」事ができるのは近所や町内の人だったと思うので、その面で現在住んでいる所の地域の方々は皆、常日頃から情報交換や交流をよくしており知らない事をいろいろ教えていただいているので、安心だと思いました。(女性 20 歳代 そう思う)
- ◆ 地域の方々と交流があり、日常的にあいさつを交わしたり地域行事に意欲的に参加したりすることができているため。地域の方々が、お互いにこの地域で気持ちよく生活できるように努力していると感じられるため。(男性 30 歳代 そう思う)
- ◆ 当地域は町内会、地域社会福祉協議会、福祉サービス提供施設、学校等の教育及び子育て支援施設、医療機関、交番、消防等一応安心して生活出来る環境がそろっているため、今後増々人と人との交流を大切にし、常に笑顔で生活出来る地域を期待しています。(男性 60 歳代 そう思う)
- ◆ 今住んでいる地域は若い世代の人が多く、世代間の交流は不足しているように思われます。町内会の世帯数もようやくここに来てのびて来たと思われる、これからの町ですので、将来を期待する所です。(女性 70 歳代 どちらかと言えばそう思う)
- ◆ 地域の活動もさかんで、人と人とのつながりがあると感じています。ただ、最近はアパート等の住居が増え、新しい人たちが地域の活動に参加するかどうか気になります。(男性 30 歳代 どちらかと言えばそう思う)
- ◆ 町内の人間関係が良好である。但し完全に“そう思う”と言えないのは町内会役員のなり手がないうこと(高齢化等による)。(男性 80 歳以上 どちらかと言えばそう思う)
- ◆ 様々な年代の住民がいて、近所付き合いも比較的良好だと思う。昔からの住宅地であるが、交通や病院、学校、商店なども近くにあり、子どもから高齢の方まで住みやすい地域だと思う。(男性 40 歳代 どちらかと言えばそう思う)
- ◆ アパート住まいで、地域の実態がよく分からないから。しかし、今のところ困ったこと、不自由なことはない。参加はしていないが、避難訓練や芋煮などを行っているようなのでつながりがないわけではなさそう。(男性 30 歳代 どちらともいえない)
- ◆ 以前と比べて、まわりの戸建住宅がマンションなどに変わっていき、隣の住人の顔がわからなくなってきたので、現在はいいが、この後はどうなっていくのかと、安心の面でどうか。(女性 50 歳代 どちらともいえない)
- ◆ 昔とくらべると近所付き合いも少なくなり、それが普通の世の中に時代が変わっているのかなあと思うと、今後どう変化していくかわからないので不安はあります。(女性 30 歳代 どちらともいえない)
- ◆ マンションなので、一家庭毎独立しているのでよくわからないことが多い。今後も安心して送ることができるかわからない。(男性 20 歳代 どちらかと言えばそう思わない)
- ◆ 数年前に移転してきた為、隣家とは交流があるがそれ以外はどのような方々が住んでいるのか、どのように交流すればよいかわからないので不安です。(女性 50 歳代 そう思わない)

## 2 保健福祉(高齢・障害)・医療機関の充実度

## 3 買い物・商業施設の充実度

## 4 公共交通機関の充実度

分類2～4については、特に、複数の分類を組み合わせる複合的に回答している人が多かったため、以下にまとめて掲載している。

- ◆ スーパーが近所にたくさんあり医療機関も充実している。バス停もすぐ目の前にあるので便利。(女性 60 歳代 そう思う)

- ◆ 交通の便が良い。病院が近い。買い物が便利。等、生活に必要とする全てがそろっているから。  
(女性 40 歳代 そう思う)
- ◆ 大都会ではないが、田舎でなく、地下鉄と J R とバスが使える、区役所やコミュニティセンターで情報を得られ、仙台市中心部に近く、孤立感がないので、今のところ、何も不安なく、充実している。(女性 40 歳代 そう思う)
- ◆ 近くに大きなモールがあり徒歩にて買い物が出来、医療機関も多く、交通の便も良い。また、公園や緑も多く、散歩もできる。(女性 60 歳代 どちらかと言えばそう思う)
- ◆ 買い物をするのに、バスやこれからできる東西線などの交通機関が充実している。・徒歩で動ける範囲に店が多くある。病院がたくさんある。(女性 40 歳代 どちらかと言えばそう思う)
- ◆ 以前ケガをした時、地域包括支援センターの方が色々な手続、他を親切に教えていただき、心強かったから。(女性 70 歳代 どちらかと言えばそう思う)
- ◆ 近所付き合いはないが、近くに病院やスーパーがあり、生活するうえで不便だと思わないため。(男性 30 歳代 どちらかと言えばそう思う)
- ◆ 健康に何らかの不安もあり、周囲には病院、銀行、スーパー、商店など、又、交通にも便利で日々利用できる為、暮すのに満足感している。(男性 70 歳代 どちらかと言えばそう思う)
- ◆ 病院も多く、高齢者の方もたくさん住んでいるので、住みにくくはないのではと感じている。(女性 30 歳代 どちらかと言えばそう思う)
- ◆ 医療機関が近くにないことや、現在は充分生活できてはいるが、健康でなくなったときに、自力で運転や、通常の生活が出来なくなると思うので。(女性 60 歳代 どちらともいえない)
- ◆ 交通の便も良く、比較的に行動しやすい場所だと思いますが、その分、交通量が多い割に道路がせまい為、自転車や車があぶなく感じる事が多いです。(女性 30 歳代 どちらともいえない)
- ◆ 今以上高齢化社会になっていった場合、支える世代が少ないので、今のままでは社会が成り立っていかないように思うため。(男性 30 歳代 どちらともいえない)
- ◆ 自分よりも上の世代が多数の地域なので、高齢化が心配(周りの人達を少数で面倒見ることになったら大変だと思う)。(女性 30 歳代 どちらともいえない)
- ◆ 車があれば買い物など充実した生活を送れるが地域柄車がなければ日々の買い物や通院が大変近くに高齢者ばかりで子供が少ないから子どもたち同士の交流がない。(女性 20 歳代 どちらともいえない)
- ◆ 地域全体が高齢化が進んでいて、コーディネーターやリーダーの成り手がなくなる。(男性 60 歳代 どちらともいえない)
- ◆ 現地点で既に街の高齢化が始まっているが、受け皿となる施設やグループホーム等の数が不足していると思われる為。(あったとしても費用面で入居出来ないと思われる。)(女性 40 歳代 どちらかと言えばそう思わない)
- ◆ 障害者への理解は一般的にできていない。特に精神障害者に対しては、いっそのこと。(女性 50 歳代 どちらかと言えばそう思わない)
- ◆ 不安なことの方が多から。病院等も遠いし、交通の便も悪く、買い物等も遠い所にしかない。(男性 40 歳代 どちらかと言えばそう思わない)
- ◆ 近隣に買い物する場所がなく、病院、駅も遠い。現在は自転車や車で移動するが、将来不安である。(女性 50 歳代 そう思わない)

- ◆ 家庭での介護が困難になった時の施設等、入居出来る余裕があるのか。(女性 70 歳代 そう思わない)
- ◆ 交通が不便。病院が遠い、年をとって運転できなくなったら、通院が難しい。誰かが入院した場合、通うのが大変。(女性 40 歳代 そう思わない)

## 5 住環境（自然との調和・治安の安定）の充実

- ◆ 空気もきれいで、公園も多く、治安もいい。同じ世代の子供をもった人がたくさんいる。(女性 30 歳代 そう思う)
- ◆ 治安もそれほど悪くないので安心して暮らしていけそう。街灯とかはもう少し明るくしてほしい。(女性 30 歳代 どちらかと言えばそう思う)
- ◆ 小さい子供を持つ親として、不審者情報を耳にすると、安心して暮らせるかと問われると、疑問に思う。(女性 30 歳代 どちらともいえない)
- ◆ 町内会、地域での交流は、盛んに行われていると感じるが、防犯の面で、不審者、変質者の目撃情報や被害の情報があまりに多いので、どちらとも言えない。(女性 20 歳代 どちらともいえない)
- ◆ 近所には、市営住宅があり、高齢者や認知症の方が多く住まわれており、救急車や消防車が頻繁に来ることから、治安が良いと感じられないため。(男性 30 歳代 どちらかと言えばそう思わない)
- ◆ 現在住んでいる地域は歓楽街にて、利便性は良好だが、一步自宅から外へ出ると安心して住める地域とは言えない。常に犯罪と隣り合わせである。(男性 60 歳代 そう思わない)

## 6 家族・親族・友人・知人等の存在

- ◆ 町内会、知人、友人と常に親しく交流している。自分でできる限りのお世話をしている。(女性 60 歳代 そう思う)
- ◆ 同居する両親が30年近く住んでいる地域で、その知人も近所に住み、交流があるので、そういった安心感がある。また、両親は地域の活動にも参加する機会も多いので。(女性 30 歳代 そう思う)
- ◆ 娘が近くに嫁いでおり、いざとなったら来てくれると思います。(女性 60 歳代 そう思う)
- ◆ 親や友人などが近くにいて嫌なことなどがあつたら言える環境ができているし、近所に住んでいる方々などとの関わりなどもあるからです。(女性 20 歳代 どちらかと言えばそう思う)
- ◆ 長男夫婦が同居していますので、何の心配もなく、安心して暮しています。(女性 80 歳以上 どちらかと言えばそう思う)
- ◆ 兄弟は近くに住んでいるが、子供達は遠方なので自分のこれからは予測が出来ない。(女性 70 歳代 どちらともいえない)
- ◆ 子供達が離れており、現在の地域で世代交替が出来るか、まだはっきりしていない。(男性 60 歳代 どちらかと言えばそう思わない)
- ◆ 知人(家族以外に)・友人がいないので不安である。(男性 70 歳代 どちらかと言えばそう思わない)



## 7 行政機関・公共施設の充実度

- ◆ 現在、暮らしている地域は、病院類も多く、区役所からのお知らせなどもよくチラシなどで見える機会があるので助かっています。(女性 20 歳代 そう思う)
- ◆ 困った時、十分な公的支援を受けられると思うので。(男性 50 歳代 そう思う)
- ◆ 区役所も近く、何かあった時に相談したら、どこかにつながる事ができて、なんとか、やっていけそうな気がする。(女性 50 歳代 そう思う)
- ◆ 現在の住居に住んで20年以上になり知人や友人もあり、近所の人の顔もある程度知っているし、近くに包括支援センターも有、区役所・交番等も比較的に近いので安心。(女性 50 歳代 どちらかと言えばそう思う)
- ◆ 行政サービス・福祉サービスについてよく分からない。情報がどこで得られるかわからない。(女性 30 歳代 どちらともいえない)
- ◆ 地域での保健福祉活動の実態が不明。年1回の健康診断以外、地域での活動に思い付く事は無い。もっと、こんな事をして、こんな成果が得られたと言ったアナウンスが欲しい。(男性 50 歳代 どちらかと言えばそう思わない)

## 8 子育て支援・教育環境の充実度

- ◆ 子供を育てる環境が整っている。両親も近くに住んでいるので何かあったらすぐに対応できるため。(男性 30 歳代 そう思う)
- ◆ 子どもを持って、初めて子育て支援が思ったよりも充実していた。また、86歳の祖母が、体操教室(包括センターの)等に参加したりと、高齢者への支援も充実していると思う。(女性 20 歳代 どちらかと言えばそう思う)
- ◆ 子供達が、安心して学校に行ける環境で、地域の人の見守りがある。気心知れた、友人が出来た事。(女性 30 歳代 どちらかと言えばそう思う)
- ◆ 幼稚園、保育所、小学校、デイサービス等、小さな子がいる家庭から高齢者までが利用できる施設が多くあり、長い期間(出産～老後まで)住みやすそうです。ただ古くから住んでいる人達が多く、新しく住む人とは少し壁があるように感じられます。町内会の存在とかよく分からないです。(女性 20 歳代 どちらかと言えばそう思う)
- ◆ 働きたくてもなかなか保育園に入れないし、子供をみってくれる人もいないから。(男性 30 歳代 どちらともいえない)
- ◆ 現在住んでいるアパートから娘が通う予定の小学校まで子どもの足で約20分。細い道などが多いため防犯対策は大丈夫なのかと心配。他の地域で見かける、横断歩道の所に立っているボランティアの方々がいないような気がする。(女性 20 歳代 どちらかと言えばそう思わない)

## 9 経済基盤の充実度

- ◆ 現在住んでいるアパート及び、その近辺は、特別、問題がある地域ではない。今後も住んでいけると思う。問題と言えば、今後の生活して行くうえでの生活費かな！(男性 50 歳代 そう思う)
- ◆ 近所の方とも、比較的交流があり、近隣にデイサービスなどの施設もあるようなので。ただし、経済的な面が心配。(女性 40 歳代 どちらかと言えばそう思う)
- ◆ 今の場所にいつまで居られるか不明、不安。経済面からの転居や災害による立退きなどいつ起きるか予想つかない、不安安心できない。(男性 30 歳代 どちらともいえない)

- ◆ 一人暮らし又は介護が必要になった場合に、自分の経済力に合った入所施設が（公的機関）あるかどうか心配がある。（男性 70 歳代 どちらともいえない）
- ◆ 経済的に余裕がない。仕事をしないと自分の生活が成り立たない、体力的にも続かない。他人の事をしてあげる時間がない。（女性 40 歳代 どちらともいえない）
- ◆ 安定した収入が近々見込めなくなる。住宅ローンもまだまだ残っているのでとても心配しています。とても安心で充実した生活なんて送れるはずがありません。もっと高齢者に優しい世の中を望みます。（女性 60 歳代 どちらかと言えばそう思わない）
- ◆ 地域…云々ではなく、経済的に生活するのがやつの状況なので。低所得者が少しでも生活しやすいように…願っています。（性別・年齢無回答 どちらかと言えばそう思わない）
- ◆ 地域貢献したくても、時間も、金銭も余裕がありません。（性別・年齢無回答 どちらかと言えばそう思わない）
- ◆ 現在年金生活です。決まった額での生計を今後は維持出来なくなると思います。消費税や年金減額、物価上昇等…現在の住居も手離すようになるかと思えます。（男性 60 歳代 そう思わない）

## 10 災害に強い都市基盤

- ◆ 地震等で被害があまり無い地域だから。地域に医療施設が多く安心だから。行政の事業所に近いので。買物など近所で済ませることが出来るから、又、都心部に近く短時間で行けるから。近隣に親戚兄弟が居住しているから。（男性 70 歳代 そう思う）
- ◆ 震災の時も、津波などの大きな被害が少なく、日常生活に必要な行政、店舗、病院もそろっている為。（女性 30 歳代 そう思う）
- ◆ 津波や噴火、土砂崩れ等の災害の心配のない地域であり、近くに交番や消防署、スーパーにコンビニ、銀行や郵便局、開業医、地下鉄の駅が近い等、便利である。（男性 70 歳代 そう思う）
- ◆ 今まで大きな天災などで住めなくなる程の被害が出たことがなく、赤ちゃんから高齢者の方まで、全ての年代の方が居るから。（女性 20 歳代 どちらかと言えばそう思う）
- ◆ 震災の時に地域の安否確認、支援なども特になかったのが不安です。しかし、それでも乗り越えられたので、大丈夫なのかなと思うので、「どちらでもない」を選びました。（女性 40 歳代 どちらともいえない）
- ◆ 少子高齢化が進んでいるため、災害など有事の際に、助け合う事がむずかしいと思う。（男性 20 歳代 どちらかと言えばそう思わない）
- ◆ 高齢者の方が年々多く一人暮らしの方が災害時にとすると安心とはいえない。（男性 40 歳代 そう思わない）

## 11 その他

- ◆ 今まで住んでいて特に不安はない。（男性 60 歳代 そう思う）
- ◆ 特に問題がなく、一人一人が自立していると思います。（男性 50 歳代 そう思う）
- ◆ 特に問題のありそうな近所の方もいないので、今まで通りで大丈夫のような気がします。（女性 40 歳代 どちらかと言えばそう思う）
- ◆ 特に問題を感じていないし、年齢的にも切迫してないので実感が無い。（女性 40 歳代 どちらかと言えばそう思う）

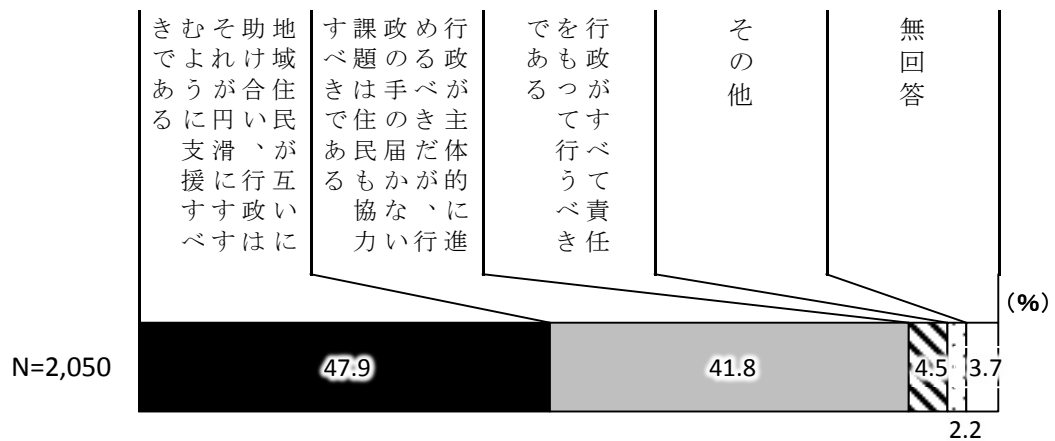
- ◆ 自分も地域も変化していくので、将来のことは分からない。(男性 60 歳代 どちらともいえない)
- ◆ まだ引っこして1年位なのであまりよく知りません。(女性 30 歳代 どちらともいえない)
- ◆ 現住所は、自分にとって「みなし仮設住宅」であり、いつまでもここに住んでいる訳ではなく、一時的なものである。最終的には移転先が永住先となるが、そこが安心して充実した生活を送ることができるようになる事を希望する。(男性 60 歳代 どちらともいえない)
- ◆ 今のところ元気なので不自由は感じないが今後病気などで動けなくなった時どうかなと思うことはある。(女性 50 歳代 どちらともいえない)
- ◆ 特に大きな問題はないけど、少し不満なこともあるから。でも普通には生活できるんじゃないかと思う。(女性 19 歳以下 どちらともいえない)
- ◆ 仮上げ住宅にお世話になっていますので、気持ちがおちつきません。(女性 70 歳代 どちらかと言えばそう思わない)
- ◆ 借家での一人暮らしです。安心出来るものは何也没有什么。自分で自分を守るのが精いっぱいです。(女性 70 歳代 そう思わない)

## (3) 行政と地域住民の関係のあり方

問 21. 誰もが住みなれた地域で安心して暮らせるように地域づくりを進めていくためには、行政と住民の関係はどうあるべきだと思いますか。1つだけ選んで○をつけてください。

(○は1つだけ)

○「地域住民が互いに助け合い、行政はそれが円滑にすすむように支援すべきである」が 47.9%と最も多く、次に、「行政が主体的に進めるべきだが、行政の手の届かない課題は住民も協力すべきである」が 41.8%と共に 4 割台を占めており、「行政がすべて責任をもって行うべきである」(4.5%) は 1 割に満たない。

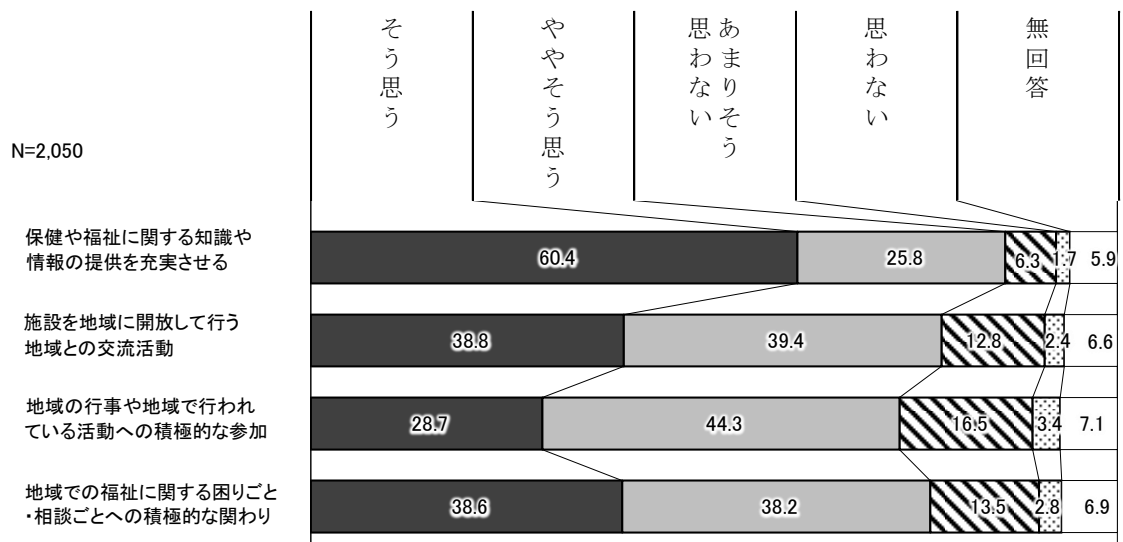


## (4) 保健福祉サービス事業者に期待すること

問 22. 今後、老人ホーム・障害者施設・保育所などの事業者が行う次の地域活動に、どのくらい期待しますか。項目ごとに、あてはまるものをそれぞれ1つだけ選んで○をつけてください。

(項目ごとに○は1つ)

○「そう思う」(60.4%)と「ややそう思う」(25.8%)とをあわせると8割を超え最も多かったのが“保健や福祉に関する知識や情報の提供を充実させる”となっている。また、他の項目についても、“施設を地域に開放して行う地域との交流活動”(78.2%)、“地域の行事や地域で行われている活動への積極的な参加”(73.0%)、“地域での福祉に関する困りごと・相談ごとへの積極的な関わり”(76.8%)と、いずれの項目においても「そう思う」及び「ややそう思う」の合計が、全体の7割を超えている。

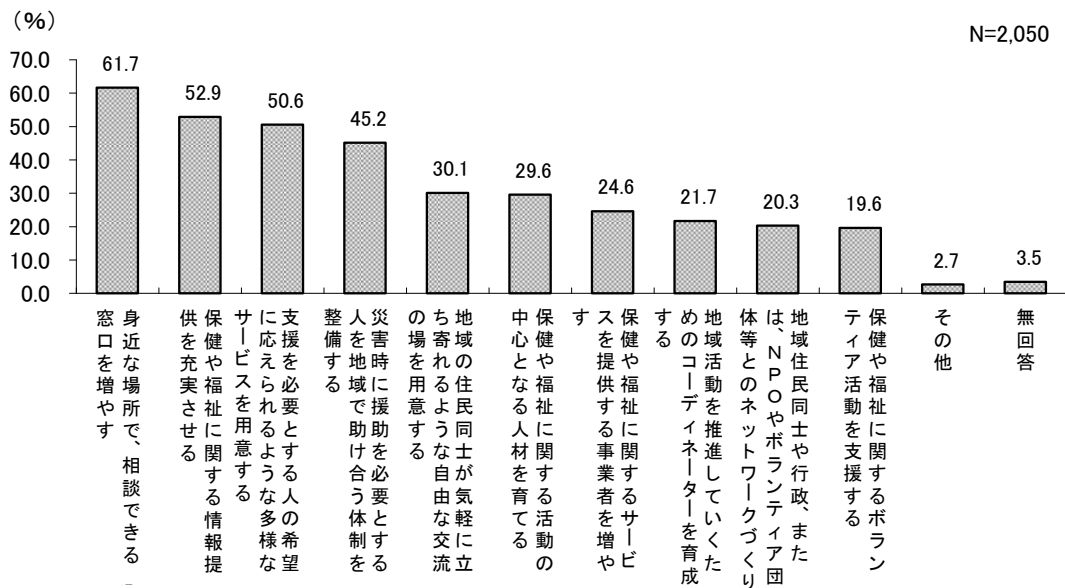


	『そう思う』・『ややそう思う』	『あまりそう思わない』・『思わない』
保健や福祉に関する知識や情報の提供を充実させる	86.2%	8.0%
施設を地域に開放して行う地域との交流活動	78.2%	15.2%
地域の行事や地域で行われている活動への積極的な参加	73.0%	19.9%
地域での福祉に関する困りごと・相談ごとへの積極的な関わり	76.8%	16.3%

## (5) 市に期待する施策

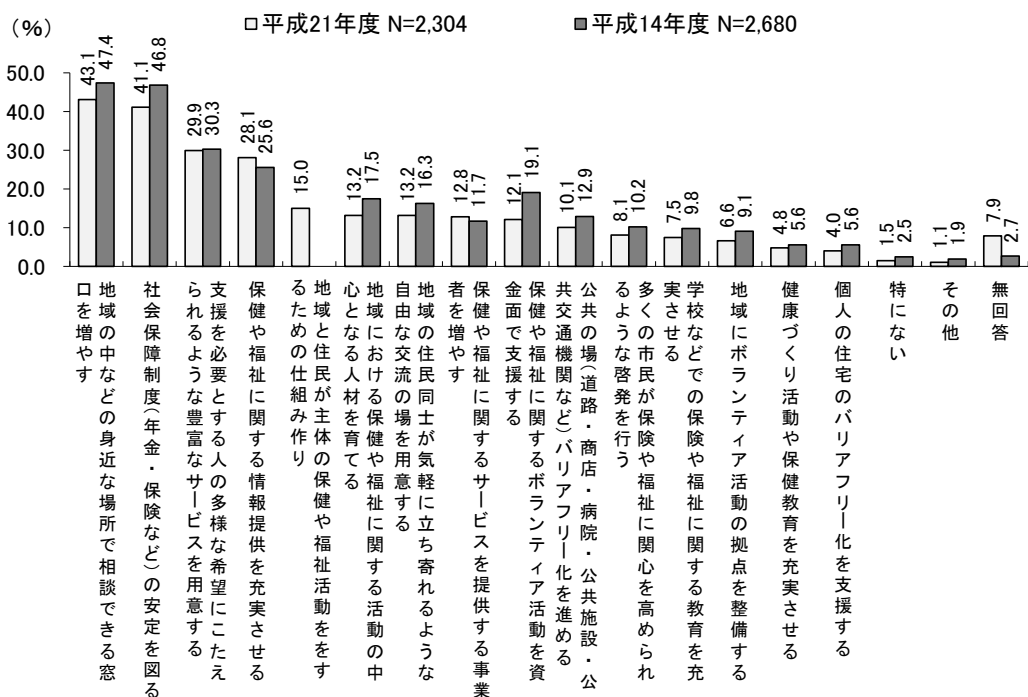
問 23. 今後、日常生活上困ったことがあっても、あなたが住みなれた地域で安心して生活していくために、行政はどのような施策を行っていくべきだと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。  
(○はいくつでも)

○「身近な場所で、相談できる窓口を増やす」が 61.7%と 6 割台で最も多く、以下、「保健や福祉に関する情報提供を充実させる」(52.9%)、「支援を必要とする人の希望に応えられるような多様なサービスを用意する」(50.6%) が 5 割台で続いている。



## 参考：平成 21 年度、平成 14 年度調査

平成 21 年度、平成 14 年度も同様の設問を設けたが、選択肢が異なるため、参考値となる。



## (6) 地域保健福祉の担い手

問 24. 日常生活において困ったことがあった場合、その手助けは、誰が(どこが)行すべきだと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

○「家族」が86.9%と8割を超え最も多く、次に、「行政機関(市役所や区役所など)」(59.8%)が6割近くに達し、以下、「保健や福祉のサービスを提供する施設や事業者」(35.0%)、「地域の住民」(22.9%)が続いている。

